

Title	「銀行の競争力について」へのコメント
Sub Title	Comments on Y. Shikano
Author	渡辺, 幸男
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1992
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.84, No.4 (1992. 1) ,p.904(162)- 905(163)
JaLC DOI	10.14991/001.19920101-0162
Abstract	
Notes	小特集：経済学会コンファレンス：金融システムの国際比較
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19920101-0162

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「銀行の競争力について」へのコメント

渡 辺 幸 男

本報告は2の「銀行の競争力を巡る議論」と3の「銀行の競争力をどのように捉えるべきか」とを中心に、「銀行の国際競争力比較の尺度」と「銀行の国際競争力を規定する要因」とは何かについて、まともに論じている。従来具体的な形で論じられてこなかった、「銀行」の国際競争力についての意欲的な報告ということができよう。

内容的に意欲的なだけに、展開の仕方としては、2つの側面が明確に整理されていない部分が存在する。論旨を2つの側面それぞれについてまとめ、展開したほうがより分かり易いものになったのではないかと思われる。

以下の具体的な内容についてのコメントは、金融制度や銀行資本の競争については全くの門外漢である筆者が、産業資本の国際競争についてこれまで学んできた立場から、門外漢としてある意味で勝手に行なうものである。違う分野の人間が、「競争」を考えるのには、という視点でコメントすることも、全く無意味なことではないと思っている。

本報告を読み、先ず銀行資本の競争を考える議論として気になった点は、ここで取り上げている「銀行の競争力」の比較とは、誰と誰が、どのような市場で、何をめぐって、何を主たる競争手段として競争している「競争」の比較なのかという点である。さらに、競争力を比較する際、銀行の出自国がどのような意味を持っているのかという点である。

すなわち、本報告では「邦銀」と「米銀」等が直接的に比較されている。「銀行の競争力」というとき、その比較される主体を「邦銀」といった国別に見た一般的な銀行総体、あるいはその平均像とも言うべき概念で代表させてよいのか。本報告では、暗黙の了解は別として、明示的には「日本の銀行」一般で議論されている。日本の家電メーカーが国際的に見た家庭用VTR市場で圧倒的な強さを持っているような意味で、「日本の銀行」が強いかどうかを議論してよいのだろうか。家庭用VTRの場合であれば、日本メーカーが日本国内の高度な精密加工能力基盤を背景に世界を制覇している。しかし、「日本の銀行」が日本の金融制度を背景に、VTRのような形で言えるような強さを発揮しているとは思えない。もし総体として言うのでないならば、「日本のA銀行」あるいは「日本の特定銀行群」と「他国の対応する銀行（群）」に特定して比較する必要がある。

次に問題としたい点は、競争する市場を限定しないで、一般的な強さを語ることが可能かという点である。市場の条件が米国市場やユーロ市場で異なれば、同一の企業同士競争していても優劣が

市場ごとに異なるということが考えられるのではないか。どの市場でも共通する競争上の優位をもたらす条件を考えることは妥当とは思えない。これも家庭用 VTR 市場のような場合であるならば、ほぼ単一の世界市場に近いものを考えることができるので、どこの市場での競争力かを問題にしないでもよいと思う。しかし銀行の場合は、各国市場や国際市場間で制度的な差異が大きく、米国市場での外銀と米国銀行、ユーロ市場での各国銀行、第3国市場での外銀同士の競争といった形で考える必要があると思われる。いかがであろうか。

さらに、もし以上のように多様な市場が存在するということになれば、市場により優位性を発揮する側面が異なるのではないかという疑問が生じる。競争力についての基本的な必要条件はあるとしても、そのうえである市場ではある面での強さが優位につながり、他の市場では異なる側面の優位が強さにつながる、ということが言えるのではないか。「銀行の競争力の国際的な格差」といった形で一般化できるのかという疑問である。

産業資本の競争の例で言えば、VWのビートルが高い競争力を保持した状況と、モデルチェンジが頻繁な日本車が優位を発揮している市場状況とを対比して、一般的な意味での「競争力比較」をすることが可能かということである。

国際金融市場における、各市場の状況の差異、あるいは時系列的な環境変化が、優位性を発揮する側面の重点を変えることがあるならば、競争の主体が誰かだけではなく、どのような市場での競争を問題とするのかを限定、あるいは明示して議論する必要があるだろう。

以上、産業資本の競争力の国際比較を研究テーマの1つとしているものとして、全く不案内な金融市場での競争の状況を見逃し、ごく一般的なコメントを一方的に述べさせてもらった。産業資本が競争している市場とは異質な市場での競争、そしてそこでの競争力を問題とする本報告から、産業資本の競争を考えるうえでのいくつかの示唆を得ることができた。最後に、このような示唆を得たことについて、報告者と本コンファレンスに出席の機会を与えて下さった浜田教授に感謝の意を表したい。

(経済学部教授)